

# 「建設資材の需要見通し」及び「課題と対応状況等」について

(発注機関)

H25.9.2

平成 25 年度第 2 回建設資材対策東北地方連絡会宮城県分会

建設資材の需要見通しについて

<p>○平成25年度使用資材のうち、鋼矢板等の仮設材、ブロックやフルーム類及び基礎杭等の二次製品についてはメーカー等の尽力もあり、ほぼ予定に沿って納入されている。生コンについては一部にセメント種別の変更があるほか、特に名取・岩沼地区で厳しい状況が見られる。</p> <p>○平成26年度以降使用資材は、海岸ブロック6千個、フルーム10千m、生コン20～30千m<sup>3</sup>、碎石・山土類・仮設鋼材など若干量。</p> <p>○今後本格化するほ場整備事業用資材が多量（用水管・給水栓、暗渠管・材、排水フルーム、客土材・山土類、道路碎石等）。</p>
---

課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>1. 生コン並びに生コン車及びポンプ車の調達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生コンは出荷制限や予約が取れないなどの状況あり</li> <li>・秋以降は少量多物件発注により生コン車が不足との情報があり、自前調達も視野</li> <li>・ポンプ車は地域保有車が逼迫し取り合いの状況、一部に自前遠隔地調達の実績あり</li> </ul> <p>2. 建築工事の技能作業員の確保、今後、復興住宅との競合を懸念</p> <p>3. 山土類（客土材等）の取引条件がダンプ不足のため、現場渡しから土場渡しとなった実績あり</p>	<p>1. 2ヶ月前予約や打設日の遵守などで対応しているが、大口需要家の予約状況、巨理復興プラントの状況、生コン車やポンプ車の状況と見通しなど、地区単位での情報共有を要望</p> <p>2. 地元業者の状況など情報を得たい</p> <p>3. 自前調達ダンプで土場に取りに行っていたが、今後の見通しや全体的な状況など情報を得たい</p>

## 建設資材の需要見通しについて

<p>○仙台海岸防災林復旧工事は、全体計画量約900ha(盛土量約2000万m<sup>3</sup>)のうち、平成25年度までで、約123ha(盛土量284万m<sup>3</sup>)が完成済み、および完成見込み。</p> <p>なお、現在、1工区約3haの工事を公告中であり、そのほか準備整次第、実施可能な箇所から順次事業を進めていく予定。(現在、計画中の事業量は合わせて約45ha(盛土量約100万m<sup>3</sup>)程度の海岸林造成事業。実施時期は未定)</p> <p>さらに、復興事業予算の要求期限である平成27年度予算を見据え、平成26年度は約200ha、平成27年度は約400haの規模で事業を実施する必要があるが、事業対象箇所の多くが、未だがれき処理場又は置き場となっているほか、他事業の作業ヤードとなっており、事業調整による事業量の大幅な変更もありえる。</p> <p>○気仙沼地域では、海岸防潮堤1箇所(124m)が今年度完成予定で現在施工中。来年度以降、7箇所(約3500m)の防潮堤施工を予定。防潮堤の本体コンクリート必要量は約10万m<sup>3</sup>。そのほか、海岸防災林復旧工事を5箇所検討中であり、他事業との調整などの問題があるが、約300万～400万m<sup>3</sup>程度の盛り土による海岸林造成事業を想定している</p>
--

## 課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>①盛り土資材(山砂)などの価格上昇。</p> <p>②請負業者の山砂の調達先が遠隔地にならざるを得ない場合。</p> <p>③がれき置き場、作業ヤードなど、他事業との調整により、事業の進行に影響が出る可能性がある。</p>	<p>①月一回、山砂価格の調査を行い、実勢価格の積算への反映に努めている。</p> <p>②調査、確認後、実態に応じ、設計変更を行うこととしている。</p> <p>③復興事業の遅れを解消するため、関係機関と連絡調整を密に図っていく。</p>

## 建設資材の需要見通しについて

### 【生コンクリート】

- ・**気仙沼地区は、約 800m<sup>3</sup>／(月平均)の需要で推移、供給可能量(48,000m<sup>3</sup>)に対しての影響は小さい。**
- ・**石巻地区は、約 6,000m<sup>3</sup>／(月平均)の需要で推移、供給可能量(61,500m<sup>3</sup>)に対しての影響は小さい。**(コンクリート製品への転換対策)
- ・**仙台地区は、約11,000m<sup>3</sup>／(月平均)の需要で推移、供給可能量(168,500m<sup>3</sup>)に対しての影響は小さい。**(コンクリート製品への転換対策)

### 【アスファルト合材】

- ・**宮城県内での需要量が約4,400t／(月平均)の需要で推移、供給可能量(421,200t)に対しての影響は小さい。**

### 【砕石】

- ・**宮城県内での需要量が約6,400m<sup>3</sup>／(月平均)での需要で推移、供給可能量(295,000m<sup>3</sup>)に対しての影響は小さい。**

## 課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>①生コン不足の対応</p> <p>②不足する生コンクリート用骨材(砂)の確保について</p> <p>③官民の協力連携、情報共有体制について</p>	<p>①<b>引き継ぎ、需給状況に注視しながらコンクリート二次製品への転換やミキサ一船の導入等により生コン使用の抑制に努める。</b></p> <p>②逼迫する生コンクリート用骨材(砂)の確保のため、<b>河川・ダム湖に堆積する川砂を最大限に活用した供給支援を実施。</b>                      (七ヶ宿ダム → 6月17日採取開始：七ヶ宿観光開発)                      (北上川 → 5月7日採取開始：迫砂利協業組合)</p> <p>③8月6日に今年度2回目の「建設資材対策東北地方連絡会」を開催。                      今後の災害公営住宅建設工事の本格化に合わせ、新たに「<b>災害公営住宅専門部会</b>」を開催予定。</p>

【別紙様式2】

機関・団体名：農林水産部 農村振興課

建設資材の需要見通しについて

<p>○農業農村整備事業における、復興交付金事業によるほ場整備工事実施にあたっての、コンクリート二次製品の不足が懸念される。</p> <p>○農地復旧事業において、地盤沈下箇所への盛土材の不足。災害査定概算数量2,430,000m<sup>3</sup>必要。</p>
--

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>○コンクリート二次製品の不足懸念</p> <p>○ほ場整備工事に伴う盛土材料の不足について</p>	<p>○コンクリート製品組合等との関係団体と連携を図り、需要見込み等の情報提供を行うこととした。</p> <p>○地盤沈下に対する対策として、盛土による設計だけでなく、別途工法検討し、必要最小限となるような工法により実施設計を図っている。 なお、各種団体より、残土提供を受けているところではあるが、残土等発生する工事等があれば、情報提供いただきたい。</p>

建設資材の需要見通しについて

<p>○ 治山事業については、平成25年秋以降に順次災害復旧事業が実施され、特に石巻及び気仙沼地区において生コンは8万m<sup>3</sup>、生コン(二次製品)は10万m<sup>3</sup>の需要が見込まれる。</p>
---

課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>○ 平成26年度以降が工事のピークとなり、全体的な資材不足が懸念される。</p>	<p>二次製品の積極的な活用や、関係機関と情報交換する等し適宜調整したい。</p>

## 建設資材の需要見通しについて

<p>○アスファルト合材については、必要な総量は206千t程度であり、年内は5,000t/月程度であるが、H26年1月～4月は9,000t/月程度で推移する見通し。</p> <p>○生コンクリートについては、必要な総量は358千m<sup>3</sup>程度であり、11月までは5,000m<sup>3</sup>/月程度であるが、12月以降は増加し、特にH26年2月以降は10,000～12,000m<sup>3</sup>/月となる見通し。</p> <p>○生コンクリート(二次製品への転換)については、必要な総量は273千m<sup>3</sup>程度であり、年度H26年2月までは1,000～3,000m<sup>3</sup>/月程度であるが、H26年3月以降増加し、H26年5月以降は9,000～12,000m<sup>3</sup>/月程度となる見通し。</p> <p>○砕石については、必要な総量は402千m<sup>3</sup>程度であり、年度内を通して6,000～12,000m<sup>3</sup>/月程度となる見通し。</p> <p>○捨石については、必要な総量は450千m<sup>3</sup>程度であり、H26年2月までは2,500～6,000m<sup>3</sup>/月程度であるが、H26年3月から増加し、H26年4月以降は10,000～17,000m<sup>3</sup>/月程度となる見通し。</p> <p>○鉄筋については、必要な総量は3千t程度であり、300t/月以下で推移する見通し。</p> <p>○鋼矢板(本設)については、必要な総量は59千t程度であり、年内は1,000t/月以下であるが、H26年1月以降は増加し2,000～3,000t/月程度となる見通し。</p> <p>○仮設鋼矢板については、今後総量で12,000t程度が必要となる見通し。</p>
---

## 課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>○平成25年の年末からの復旧・復興工事の本格化に伴い、実際の資材供給体制がどのようになるのか見通せていない。</p>	<p>○今後の動向を注視するとともに、工事の平準化についても可能な範囲で検討していきたい。</p>

## 建設資材の需要見通しについて

<p>東部土木事務所及び石巻市・東松島市・女川町の集計結果は以下のとおり</p> <p>○AS合材については、平成28年度までに459千tを使用する予定となっており、今年度は16千t～29千t/月で推移し、平成26年度以降は、100千t/年前後となる見込みである。</p> <p>○生コンについては、平成28年度までに478千m<sup>3</sup>を使用する予定となっており、復興事業等の本格化となる平成26・27年度に200千m<sup>3</sup>/年程度使用される見込みである。</p> <p>○石材関係については、平成28年度までに1,737千m<sup>3</sup>を使用する予定となっており、平成26・27年度に50千m<sup>3</sup>～70千m<sup>3</sup>/月の推移で使用される見込みである。</p>
---

## 課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>○既設生コンプラントより遠隔地(半島部等)の市営漁港災害復旧工事において、発注しても不調が続出している。</p>	<p>○既設生コンプラントより遠隔地への絶対供給量が少ないことに起因していると思料され、県として仮設プラントの設置を計画しており、早期の完成が必要である。</p>



## 建設資材の需要見通しについて

<p>気仙沼土木事務所及び気仙沼市、南三陸町の集計結果は以下のとおり。</p> <p>○アスファルト合材の需要量は、平成25年度の9月以降の総計として37千tとなり、1月に5千t、2月に6千tを見込んでいます。また、平成26年度は54千t、平成27年度は59千tと見込まれています。</p> <p>○生コンクリートの需要量は、平成25年度の9月以降の総計として100千m<sup>3</sup>となり、9月の18千m<sup>3</sup>を皮切り12月から順次増加し、3月には19千m<sup>3</sup>となっています。また、平成26年度は729千m<sup>3</sup>、平成27年度は549千m<sup>3</sup>と見込まれており、工事の本格化に伴い一気の増加傾向にある。</p> <p>○一方では、コンクリート二次製品化を平成25年度9月以降は24千m<sup>3</sup>、平成26年度は374千m<sup>3</sup>、平成27年度は353千m<sup>3</sup>と、積極的な転換を図っている。</p> <p>○碎石の需要量は、平成25年度の9月以降に62千m<sup>3</sup>、平成26年度は440千m<sup>3</sup>、平成27年度は423千m<sup>3</sup>と見込まれている。</p> <p>○同様に、捨石についても、平成25年度9月以降は54千m<sup>3</sup>、平成26年度は409千m<sup>3</sup>、平成27年度は211千m<sup>3</sup>が見込まれている。</p>
---

## 課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>○本格的な復旧工事は途についたばかりであり、輻輳する工事工程の調整等は今後行う事になり、建設資材の正確な需給量の把握が今後必要となる。</p> <p>○復旧工事の本格化に伴い、生コンクリートの需要量が増大する事になり、供給量を増加させる対策を継続する必要がある。</p> <p>○生コンクリートからの二次製品化は、構造上可能なものの転換を図っているが、今後、製造工程等の調整が必要となる。また、消波ブロックや被覆ブロックの製作・仮置き場の確保が必要となる。</p>	<p>○今後も継続的に建設資材の需要動向調査を実施し、必要な対策をスピード感を持って実施す必要がある。</p> <p>○大島地区では5月に、歌津地区では6月に生コンクリートが設置され供給が開始されているが、今後設置が計画されている生コンクリートプラントの早期設置、供用が望まれる。</p>

建設資材の需要見通しについて

○生コンクリート

・昨年度は、週2回程度で曜日指定での出荷であったが、現在は、毎日の入荷も可能となっている。ただし、「二週間前からの予約」が必要な状況は変わっていない。

○コンクリート二次製品

・昨年度は、「注文してから2ヶ月待ち」の状態であったが緩和されている。業者は、「早めの注文」の習慣がたったこともあり、不便を感じない状態まで戻っているとのこと。

課題と対応状況等について

課題	対応状況等
現在のところ特になし	

### 建設資材の需要見通しについて

主要資材	単位	需要量 合計	平成25年度												平成26年度						平成27年度 下半期	平成28年度
			9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	7月	8月	9月				
アスファルト合材	t	230,909	7,098	9,615	8,930	9,751	11,460	12,601	11,193	2,382	2,872	3,064	4,538	4,326	2,652	41,932	41,420.15	57,095.8				
生コンクリート	m <sup>3</sup>	357,535	33,796	38,051	40,755	35,791	33,412	33,477	27,854	21,406	18,296	15,418	9,835	16,248	10,215	18,533	31,433	1305				
生コンクリート(ミキサー車)	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
生コンクリート(二次製品転換分)	m <sup>3</sup>	2,914	428	265	246	214	200	60	53	57	33	33	33	13	135	265	363	386				
砕石	m <sup>3</sup>	342,567	29,011	39,625	37,682	28,612	18,390	13,601	13,288	7,952	6,780	5,213	5,312	6,420	5,131	38,007	34,627.04	52,717.88				
砕石	m <sup>3</sup>	928	2	201	83	145	128	0	25	0	0	0	0	0	115	0	115	115				
鉄筋	t	30,438	3,166	3,293	3,046	2,897	2,678	2,757	3,026	1,831	1,480	1,306	898	1,296	642	1,560	373	90				
鋼矢板(本設)	t	1,906	17	14	52	235	42	162	4	0	70	0	0	1,300	0	6	6	6				

○南蒲生浄化センター災害復旧建設工事の本格化(H25・H26)    ○復興(災害)公営住宅新築工事の本格化(H25・H26)    ○造成宅地滑動崩落緊急対策工事の本格化(H25)

### 課題と対応状況等について

課題	対応状況等
<p>○生コン出荷時期及び出荷量の調整による工期の遅延</p> <p>○生コンや砕石など調達が少ない場合、受注者自らプラントへの受取りによる作業効率の低下</p> <p>○生コンの需給バランスを最適に保つための課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工程調整による需要量の平準化</li> <li>・ 生コン打設時間帯の情報共有化</li> </ul> <p>○需給予測の精度向上</p>	<p>○遠隔地からの建設資材調達に係る変更契約の運用を開始(対象資材:生コン, As合材, 石材, 仮設材)</p> <p>○コンクリート二次製品の活用(転換)⇒H25.3庁内関係係通知発出</p> <p>○工程調整による需要量の平準化に向けた検討</p>

建設資材の需要見通しについて

<p>○当会社では、復興道路である三陸道の一部「仙台松島道路」の4車線化事業を推進している。</p> <p>○4車線化事業の工事ピークは今年度(H25年度)であり、来年度(H26年度)末には全線4車線供用の予定である。</p> <p>○このため、今年度(9月以降)から来年度にかけて、アスファルト合材(約7万t)、生コン(約1万m<sup>3</sup>)、碎石(約4万m<sup>3</sup>)など、多くの建設資材を必要としている。</p> <p>○4車線化事業が完了する平成27年度以降については今のところ大規模工事の予定は無いため、建設資材の需要量は大きく減少する。</p>
---

課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>■ 資材供給に関して今のところ工事進捗に影響を及ぼすような状況にはないが、今後の供給状況に不安は感じている。</p> <p>■ コンクリート2次製品について、融通(数量の増加、規格の変更)が利きづらくなっている。</p>	<p>○ 資材(路盤材)のストックヤードを設け、可能な限り資材を事前調達している。</p> <p>○ 生コンについては、事前(2～3ヶ月前)にプラントに予約を入れることで、供給の確実性を確保している。</p> <p>○ コンクリート2次製品の変更が生じないよう、設計図書と現場状況の事前確認を重点的に実施している。</p>

建設資材の需要見通しについて

【仙台地区】	資材	単位	H25.9-H26.2	H26年度	H27年度	H28年度	計
	アスファルト	t	18,444	11,000	44,000	11,000	84,444
	コンクリート	m <sup>3</sup>	11,266	0	0	0	11,266
	砕石	m <sup>3</sup>	11,816	0	0	0	11,816
	鉄筋	t	802	0	0	0	802
	鋼矢板	t	0	0	0	0	0

  

【大崎地区】	資材	単位	H25.9-H26.2	H26年度	H27年度	H28年度	計
	アスファルト	t	11,400	14,000	2,700	11,900	40,000
	コンクリート	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0
	砕石	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0
	鉄筋	t	0	0	0	0	0
	鋼矢板	t	0	0	0	0	0

課題と対応状況等について

課題	対応状況等
① 安定した資材調達への困難による遠方地からの資材調達 ② 資材価格の高騰による入札不調の発生	① 契約変更の対象とする措置 ② 入札前価格交渉(競争参加希望者からの見積を採用)の活用

### 建設資材の需要見通しについて

<p>平成25年9月から仙石線の復旧工事に使用する建設資材として、アスファルト合材110t、生コンクリート3,550m<sup>3</sup>、砕石2,877m<sup>3</sup>、鉄筋6t、鋼矢板676tの需要を予定しています。 また、今後復旧工事が本格化し、施工内容によっては数量の変更が伴う可能性もあります。</p>
---

### 課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>・H25.5.17建設資材対策連絡会の資料によると東部地区においては、H26年度は需要が供給量を超える状況のため、当社においてもH26年度に復旧工事では生コンクリートを使用する計画のため、円滑に供給されない恐れがある。それに伴い工期が遅れる事象が発生することになれば、このことが課題です。</p>	<p>計画的に生コンクリート調達計画を供給会社に通知して対応を図ります。</p>

### 建設資材の需要見通しについて

<p>1. 恒常的な工事量は減少傾向であり，中長期的には建設資材の需要量は震災前の計画レベルに戻っていない。                  2. 電源新設工事等では短期的に建設資材を要することから，請負工事会社を通じて供給会社と十分な調整を図り，建設資材を調達している。</p>
---

### 課題と対応状況等について

課 題	対応状況等
<p>1. 女川原子力発電所の各種工事において，契約後に生コン供給量の上限値が設定(月水金において120m<sup>3</sup>/日)されたことにより，工程の遅延が発生している。(岸壁復旧工事については1年程度の遅れ)</p>	<p>1. 女川原子力発電所における各工事の重要度等を踏まえ，現在建物工事を優先的に進めて，コンクリートの供給制限値内で施工している。その結果，岸壁復旧工事については当初昨年度末に完了する計画であったが，今年度一杯かかる模様。</p>